

## ネット de ひでさん塾

### <第 12 回：2012 年 5 月 18 日発行>

「サイエンス漢方処方研究会」が 2012 年 3 月 1 日に発足しました。発足時のメンバーは、安井廣迪先生（三重県四日市市・医療法人清風会安井医院）、木元博史先生（千葉県いすみ市・医療法人社団永津会 永津さいとう医院）それに私の三人です。

木元博史先生とは、1997 年から 2002 年までの時限研究会であった「洋漢統合処方研究会」（主宰：秋葉哲生先生）を通して知り合いました。木元博史先生は、1986 年に千葉大学医学部を卒業され、1990 年から 1996 年まで国立予防研究所（現 感染症研究所）免疫部に在籍し、その間 8 ヶ月間ドイツのケルン大学遺伝学研究所に留学されています。まさに免疫学の専門家です。漢方薬の基本的性質が抗炎症薬であるというのは木元博史先生のアイディアで、私にとってはまさに目から鱗でした。その後、彼とメールのやり取りをしながら、次第に漢方薬の本質がはっきりと見えてきたプロセスは、本当にワクワクするような輝く時間でした。

安井廣迪先生とは、2010 年 2 月 26～28 日の 3 日間、幕張メッセで開催された第 15 回国際東洋医学会（15<sup>th</sup> ICOM）の準備委員会に招聘されたことで知り合いました。未だもってなぜ私が準備委員会に呼ばれたのかは定かではありません。安井廣迪先生は、1972 年に順天堂大学医学部を卒業され、国立東静病院、北里研究所附属東洋医学総合研究所勤務を経て、1979 年旧西ドイツ・マールブルグ大学及びゲッティンゲン大学に留学され、ヨーロッパ民間療法および医史学の研究に従事されています。2010 年には国際東洋医学会日本支部長に就任されました。先生は日本 TCM 研究所を主宰されるほど伝統的中国医学に精通されていますが、漢方をサイエンスベースで考えるという 180°のコペルニクス的転回をいとも簡単にされてしまうという、驚嘆すべきやわらかい頭脳の持ち主です。

ちなみに私は、1975 年に北海道大学医学部を卒業してすぐに同大学第一外科に入局しました。1982 年からリサーチに入り最初は犬の腎移植をやっていましたが、後半はラットの肝移植を行いました。1988 年にオーストラリア・メルボルンのモナッシュ大学に留学してラット肝移植の実験を行っていましたが、実験に飽き足らず、自分でアプライしてシドニー大学国立肝移植ユニット（A.G.R.Sheil 教授）に移り、1990 年までシドニー大学付属病院である Royal Prince Alfred Hospital の research officer として肝移植の臨床と実験に携わりました。帰国後、1994 年から勤務した JA 北海道厚生連鶴川厚生病院から本格的に漢方の臨床を始めました。そして 1997 年に秋葉哲生先生から洋漢統合処方研究会に誘われたことが今日の私のルーツになっています。

## 五苓散シンポジウム

2010年10月31日、東京品川にて国際東洋医学会（ISOM）日本支部の主催する「五苓散シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは、五苓散に関するこれまでの諸研究や症例報告を包括し、その全体像を伝統医学と現代医学の両方から明らかにして、これからの臨床応用に役立てることを目的としており、シンポジウム終了後、安井廣迪先生は「この成果は、世界に誇ることのできるものであり、何よりも、それぞれの疾患に対する五苓散の使用法が、まず日本で標準治療のなかに入るべきであるということが明確になったと思う」とシンポジウムの意義を総括されました。



## その後の経過

「五苓散シンポジウム」の成功を踏まえて、注目される方剤を取り上げて次々とシンポジウムを開催して行こうと考え、第二弾として「芍薬甘草湯シンポジウム」を企画しました。しかしこの過程で今後の活動にはスピードと機動性が最も重要であると考えに至り、国際東洋医学会日本支部という組織を基盤とするよりは、別組織を立ち上げる方が得策であるとの認識で一致した三人が2012年2月4日に「サイエンス漢方処方研究会」を設立することで合意しました。そしてこの日に「芍薬甘草湯シンポジウム」を3月18日に名古屋市で開催することを決定しました。その時点で準備期間がわずかに1ヶ月半しか残されておらず、普通感覚ではいささか無謀な計画ですが、われわれとしては今の時期を逸してはならないという思いしかなく、数題の演題しか集まらなくても別に失うものはないという開き直りともいえる心境で、準備を開始したのです。

## 「サイエンス漢方処方研究会」の誕生

まずは研究会の名称を決めなければなりません。この研究会の立ち位置は、古典に準拠した漢方医学や中医学をサイエンスの言葉で分かりやすく解説するのではなく、古典に依らないサイエンスベースの考え方で最適な漢方薬を選択する decision-making process を示すことにありますので、「漢方医学研究会」という類いのネーミングではしっくり来ないのです。そこで「サイエンス」という語句は外せないが、「漢方医学」ではなく漢方薬をちゃんと処方できればいいのだという考え方で「漢方処方」という語句を選択して、「サイエンス漢方処方研究会」という名称を考え、安井、木元両先生にも賛同を頂きました。

次は設立趣意書の作成です。私が原案を作り、安井、木元両先生に修正・加筆して頂きました。特に注意を払ったのは、この研究会が従来の古典に準拠した研究会に対峙するものではなく、サイエンスをベースにした新しい道を目指していることが理解してもらえるような表現になっているかという点です。設立趣意書の全文を掲載します。

古代中国をその起源とし日本に渡って独自の発達を遂げた人類の宝ともいべき漢方医学は、現代医療の中で市民権を得始めてはいるが、真の意味での普及は遅々として進まない。そのひとつの原因は、漢方医学の施行の手段としての漢方薬という多数の化学物質の集合体を処方するときに、多くの臨床医にとって、現代科学からみると観念的な哲学体系や経験論に基づいた複合的な体系を習得し実践しなければならないことが、正しい漢方薬の処方のための意思決定に避けて通れないとされていることにある。しかし、漢方薬は現代医学のひとつの根幹である薬理学からみると、超多成分系であることを除けば新薬と何ら変わりのない薬剤であり、漢方薬を効果的に処方するには、中医学や漢方医学を「道」として極めるより、科学的に理解して運用する方がはるかに有効かつ現実的な手段である。この研究会の立ち位置は、伝統医学としての中医学や漢方医学の普及はあまた存在する他の研究会等に譲り、現代薬理学の中での漢方薬の科学的な位置づけを明確にし、現代医療の枠組みの中で漢方薬を積極的、効果的かつ安全に、しかも医師であればだれもが診療に取り入れられることにより、現代医学の質を飛躍的に向上させるところにある。これを実現するためには漢方薬が有効であるというエビデンスを積み上げるだけでは不十分で、漢方薬の作用機序の解明が必要にして不可欠である。このような現状認識と将来への展望を踏まえて、このたび「サイエンス漢方処方研究会」を設立するに至った。本会は現代医学に基づいた漢方処方の研究の促進ならびに漢方薬に関する科学的に正確な知識の普及をはかり、もって、現代医学の基盤に漢方処方を据えてより優れた医学と医療の発展をめざす。それと同時にわが国および世界にその成果を情報として発信することにより人類の福祉に寄与し、国際協力の発展に尽くすことを目的とする。この趣旨に賛同される諸氏の参加を切に希望するものである。

理事会のメンバーはわれわれ三人（理事長：井齋偉矢、専務理事：木元博史、理事：安井廣迪）のほかに五人の先生にお願いしました。

理事：赤瀬朋秀先生（渋谷区／日本経済大学大学院・教授）

理事：安齋圭一先生（福島市／安齋外科胃腸科医院・副院長）

理事：大澤 稔先生（前橋市／前橋赤十字病院産婦人科・部長）

理事：長坂和彦先生（長野県／諏訪中央病院東洋医学センター・センター長）

監事：中島俊彦先生（岐阜県／なかしまこどもクリニック・院長）

「芍薬甘草湯シンポジウム」の準備は、芍薬甘草湯を使った文献を検索することから始まりました。文献検索では、ツムラ図書館の新井一郎氏に大変お世話になりました。その中から約 60 篇の論文を選び、シンポジウムでのご発表をお願いしました。かなり古い文献もありましたので、現在の所属を調べるのが大変でしたが、Google を駆使して検索した結果、一人を除いて全員の現在の所属が分かりました。あまりにも時間が差し迫っていましたので、研究会やシンポジウムの趣旨には賛同して下さいてもご都合のつかない先生が多数おられましたが、それでも最終的に 16 人の先生から快諾を得て、ご発表頂くことになりました。準備期間の短さを考慮に入れば上出来だと思います。

シンポジウムの一週間前にわれわれ三人（安井、木元、井齋）は名古屋に集まって最終調整を行いました。そしてシンポジウム前日の 3 月 17 日に演者の先生、協賛企業の方々、そして役員が集まって、「ピートアイリッシュタヴァーン名駅店」という素敵なパブを貸し切ってプレシンポジウムを行いました。その後、二次会に流れて大いに盛り上がりシンポジウム前夜は更けて行きました。

翌日のシンポジウムは安保ホールで午前 9 時から午後 4 時まで、参加された先生が丸一日芍薬甘草湯漬けになって、この不思議な方剤を色々な角度から徹底的に吟味しました。五苓散のときもそうでしたが、今回芍薬甘草湯を取り上げてみて、このようなひとつの方剤に関するシンポジウムは今まで行われたことがなかったでしょうし、既成の組織では開催が難しいと考えられます。しかし、漢方薬をサイエンスで解き明かすためには、このような方法が最適であることを今回改めて確信しました。

今回は 12 月 2 日に東京で抑肝散（抑肝散加陳皮半夏）を取り上げて、シンポジウム第三弾（サイエンス漢方処方研究会としては第二弾）を執行する予定です。

それでは次に「芍薬甘草湯シンポジウム」のプログラムを記します。（敬称略）

理事長挨拶：井齋偉矢（静仁会静内病院/北海道）

## 第 1 部：芍薬甘草湯のエビデンスデータの構築に向けて 9:15～12:00

座長：井齋偉矢（静仁会静内病院 /北海道）・木元博史（永津さいとう医院 /千葉）

### 1. 肝硬変の「こむら返り」に対する芍薬甘草湯の効果

熊田卓（大垣市民病院 消化器内科 /岐阜）

### 2. 血液透析患者の筋痙攣に対する芍薬甘草湯の効果

兵藤透（倉田会えいじんクリニック /神奈川、北里大学 泌尿器科 /神奈川）

### 3. 肩関節夜間痛に対する芍薬甘草湯の有効性

橋口宏（日本医科大学千葉北総病院 整形外科 /千葉）

### 4. 整形外科領域における芍薬甘草湯の使用経験

田島康介（慶應義塾大学医学部 救急医学 /東京）

### 5. 妊娠中のこむら返り（筋クランプ）に対するツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒の有用性について

伏木弘（伏木医院 /富山）

### 6. 血液透析患者の筋痙攣に対する芍薬甘草湯の使用経験－患者に適した服用法の研究－

宮本みず江（明生会東葉クリニック大綱 脳神経外科 /千葉）

< 休 憩 >

### 7. 瘰癧に対する芍薬甘草湯の使用経験

田中源一（同源漢方研究会 源一クリニック /東京）

### 8. 高プロラクチン血症に対する芍薬甘草湯の有効性とその機序

福島峰子（針生産婦人科・内科クリニック /秋田）

### 9・芍薬甘草湯の高テストステロン血症性に対する芍薬甘草湯の有効性とその機序

福島峰子（針生産婦人科・内科クリニック /秋田）

### 10. 大腸内視鏡前処置における芍薬甘草湯併用の有効性について

斎田芳久（東邦大学医療センター大橋病院 /東京 東邦鎌谷病院消化器科 /千葉）

### 11. 注腸X線検査における蠕動運動抑制を目的としたPeppermint混入法と芍薬甘草湯経口投与法の有用性

西川孝（医療法人尚豊会 四日市健診クリニック 健診部 /三重）

### 12. 芍薬甘草湯による抗癌剤の副作用防止効果－PACLITAXELを用いた卵巣癌化学療法

杉田匡聡（NTT東日本関東病院 産婦人科 /東京）

< 休憩・昼食 >

## 特別講演：芍薬甘草湯研究の歴史と薬理を探る 13:00－13:30

座長：安井廣迪（安井医院 /三重）

演者：中田敬吾（聖光園細野診療所 /京都）

## 第 2 部：芍薬甘草湯に関する諸研究およびベストケーススタディ 13:30－14:10

座長：長坂和彦（諏訪中央病院／長野）

1. マラソンによる下肢の痙攣性疼痛に芍薬甘草湯が著効した 1 例

堺澤和泉（厚生連新町病院 内科 /長野）

2. 有痛性足ジストニーに対し、芍薬甘草湯が著効したパーキンソン病の 2 例

佐々木石雄（医療法人社団豊南会 香川井下病院 /香川）

3. 芍薬甘草湯の併用が症状の改善に有効であった破傷風の 2 例

中永士師明（秋田大学大学院医学系救急集中治療医学講座 /秋田）

< 休 憩 >

## 総合討論：芍薬甘草湯の効果を探る（ストーリー・テリング） 14:20－16:00

座長：井齋偉矢（静仁会静内病院）・木元博史（永津さいとう医院 /千葉）

講演：芍薬甘草湯の平滑筋・骨格筋に対する作用メカニズムを探る

吉崎克明（放送大学秋田学習センター /秋田）

櫛引美代子（共同演者）（弘前学院大学 /青森）

福島峰子（医療法人福峰会 針生産婦人科・内科クリニック /秋田）

ストーリー・テリング（全員参加）

閉会の辞：木元博史（永津さいとう医院 /千葉）

「サイエンス漢方処方研究会」に関する記事は今後色々なところで目にすることになると思いますので、注意してみてください。

「サイエンス漢方処方研究会」の会員数は、5 月 18 日現在 71 名を数えます。今後の活動としては、News Letter（e-mail 版）の配布、ホームページの立ち上げ、理事長の講演活動でのサイエンス漢方処方学の啓蒙・普及、講師の育成などが挙げられます。

会員登録をされた先生には、「芍薬甘草湯シンポジウム」抄録集の送付、及びネット（無料大容量ファイル転送サービス「宅ふぁいる便」）を通して理事長の講演「サイエンス漢方処方入門」のレジュメ（pdf 版）の送信を行いました。これから会員登録をされる先生にも、順次発送・送信を行います。次ページに入会申込書を掲載します。この国の医師であればだれもが容易に漢方薬を診療に取り入れることができるようになることにより、わが国のみならず世界の医学の質を飛躍的に向上させる活動への参加を切に希望するものです。

Fax 0146-43-2168

## 入 会 申 込 書

サイエンス漢方処方研究会理事長 殿

貴研究会の趣旨に賛同し、入会を希望いたします。ご承認くださるようお願い申し上げます。

\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日（西暦）必ずご記入ください。

\_\_\_\_（申込者氏名）

会員種別：     正会員     学生会員     賛助会員     （ ☐ で囲む ）

申込者記入欄（楷書でお願いします）

(フリガナ)			
氏 名		生年月日（西暦）     年    月    日	
勤務先（学校）		所属（学部等）	肩書
電話	内線	FAX	卒業予定年月 （     年    月 ） 現在学生の場合記入
E-mail			
所在地（〒                      ）			

個人情報保護のため、発送先が現住所の方のみ下記を記入願います。

現住所（〒                      ）		
電話	FAX	E-mail

発送先を指定して下さい。（☐ で囲んでください。）

勤務先     現住所     連絡先	（会誌・名簿等の発送及び案内の連絡先となります。）
---------------------	---------------------------

※本研究会では、事務局から、主催学会・シンポジウム、協賛学会・シンポジウム、その他のご案内をメールにて送付します。案内メールの送付をご希望されない場合は、下記にチェックをお願いいたします。

☐ 案内メールの送付を希望しない。

年会費：正 会 員： 5,000 円

学生会員： 2,000 円

会費は下記口座にお振込み下さい。  
北洋銀行 静内支店（読み シズナイシテン）  
【店番】024     【預金種目】普通預金     【口座番号】3162955  
サイエンスカンポウショウウケンキュウカイ

事務局記入欄		
原簿	会計	備考